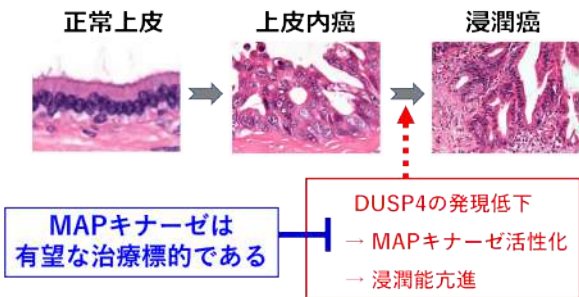


所 属・職 位	医学部医学科分子病理学講座・准教授	
氏 名	泥谷 直樹 (Hijiya Naoki)	
取 得 学 位	博士 (医学)、大分医科大学、1994年9月	
SDGs 目標	 3 すべての人に健康と福祉を	

研 究 分 野	病理学
研究キーワード	膵癌、大腸癌、悪性形質、責任遺伝子、分子標的治療
研 究 内 容	●膵上皮内癌から浸潤癌への進展に関わる分子機序の解明 膵癌は正常上皮から上皮内癌を経て生じる悪性腫瘍です。私は上皮内癌と浸潤癌のゲノム異常を比較することで、浸潤に関わるゲノム異常と責任遺伝子を同定し、それに伴って活性化されるMAPキナーゼ経路が有望な治療標的となりうることを報告しました(論文#1, 2)。 ●MAPキナーゼ阻害薬の耐性化関連分子を標的とした新規治療法の開発 膵癌はMAPキナーゼ経路依存性腫瘍であるにもかかわらず、MAPキナーゼ阻害薬に対して強い抵抗性を示します。私は抵抗性に関わる分子を同定し、その分子の機能を抑制することでMAPキナーゼ阻害薬の感受性が改善することを証明しました (paper in preparation)。現在、膵癌の新規治療法の開発に向けた基礎研究を進めています。 ●大腸癌の進展に関わる分子機序の解明 大腸癌の深達度や転移は重要な予後規定因子です。これらの悪性形質に関わる分子を同定して、バイオマーカーおよび治療標的としての有用性を報告しました(論文#3, 4, 5)。現在、臨床講座と協力して新規診断法と治療法の開発を目指しています。  正常上皮 → 上皮内癌 → 浸潤癌 MAPキナーゼは有望な治療標的である DUSP4の発現低下 → MAPキナーゼ活性化 → 浸潤能亢進
研 究 業 績・アピールポイント	論文 #1. Genomic loss of DUSP4 contributes to the progression of intraepithelial neoplasm of pancreas to invasive carcinoma. Cancer Res. 76(9):2612-2625. 2016 #2. Downregulation of ZNF395 drives progression of pancreatic ductal adenocarcinoma through enhancement of growth potential. Pathobiology 88:374-382. 2021 #3. Visinin-like protein-1 overexpression is an indicator of lymph node metastasis and poor prognosis in colorectal cancer patients. Int J Cancer. 131(6):1307-17. 2012 #4. Downregulation of DUSP4 enhances cell proliferation and invasiveness in colorectal carcinomas. Cancer Sci. 109(1):250-258. 2018 #5. DUSP4 is involved in the enhanced proliferation and survival of DUSP4-overexpressing cancer cells. Biochem Biophys Res Commun. 528 (3):586-593. 2020